

起案罪紙

大正七年 三月廿七日起案
 起案者 除印
 三月廿七日發付
 發付掛 除印
 發付後起 案者除印

軍務局長 第一課長

次官 參事官

副官

同員

同員

同員

同員

局部	受月日	發月日	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令

大正七年三月廿七日 大臣

侍從長 宛

驅逐艦時津風座礁三箇之件

第三艦隊司令長官ノ電報ニ依リ第三艦隊及第三水雷戰隊

官房機密第四六四號

一 承 二 宣

隊「去三月二十四日佐伯港」ヲ發シ途上基本演習ヲ行ヒ
 終リテ有明港ニ向ヒ航行中天候不良濛雨烈シク霧ニ水雷
 戦隊第一駆逐隊司令駆逐艦時津風「今二十五日午前十
 五時過宮崎縣ノ大崎自界ニ坐礁シ乗員一同極力之カ
 救助ニ努メタルモ波浪ノ為艦体岩石ニ衝撃セシメ危険逼
 迫乗員退去ノ已ムナキニ至リ艦体「終ニ午前十時半兩断
 セリ
 目下乗員リ附近陸上ニ在リ幸ニ無事ナリ大勢ニ水雷戦隊
 旗艦平戸及駆逐艦天津風並ニ鎮守府ヨリ急派セル
 救難船ヲ遭難地附近ニ在ルモ天候不良ノ為未ダ損害
 状況詳查ヲ得ス
 右執奏方次第計相成度

2
 安田納

紙 郵 案 起

大正七年三月廿八日

日起案

起案者 捺印

三月廿八日

發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

主務 軍務局長

出

林

山田

古

古

古

副官

林

山田

古

古

次官

參事官

法務局長

局員

局員

山田

古

大正七年三月

日

內務次官

陸軍次官

拓殖局長

各通部

監丞 監時津風坐 監之牛

帝國海軍艦隊及海軍徵用船現況所代等新聞

官房機密第

四六號

二

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	艦政	司法	經理	醫務	人事	軍務	官房	局部
								28					受月日
													發月日

1230

二十八年
日朝

大正二十八年

(死に等しい)

電報

大正二十八年二月廿八日

本日は、
お別れの日です。
ご苦労様です。

お別れの日です。
ご苦労様です。

二月廿八日
午後九時

了

母

軍

供

軍務局長

航政局



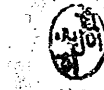
七年三月二十七日

日午後五時二十五分

海軍局

局著

第二課



海軍

7.3.28

受信者 軍務局長

発信者

呂鎮參謀長

電報譯文

対津風故難進帰トシテ檢分ノ爲ニ一強出

明朝着帰着港務部長明朝迄ニ折生迫着ノ事

定今返ノ報告ニ依リハ船体分離引却方ヲ試ム

ヨリ外致シ方ナシト認ム訓令ヲ待タヌ又明白ノ一部

實施ニ着手ニ差送ル

第二課



第一課

(發田納)

1234

7.3.29

8.28

軍務局

三八四

大正七年三月廿七日

午前十一時三十七分 吳海軍局 發
午後一時四十五分 海軍局 着

發信者 吳鎮守府副官

受信者 大臣

暗號

電報譯

吉

第三水雷戰隊司令官ヨリノ電報取次ク。狀況報
告、今朝波靜アリ、ウネリ又小ナリ、只今ハ満潮
ナルヲ以テ波濤多少中部甲板ヲ洗フモ潮引
クニ從テ波濤艦上ヲ洗フ事ナルベク作業極
メテ容易ナリト認ム出来得ル丈ケ便アルモ移動
物ノ陸揚ニ從事ス板橋九ニテ出張セル技
師ハ今朝天津凡ニテ到着セリ

(了)

海軍

(明正印圖納)

軍務局長

大正七年三月

月廿七日

日午後九時

十分

局發

第一課

海

吉

軍

受信者 軍務局長

發信者

吳鎮藩 參謀長

電報譯

磯用無事ノ港 換傷ノ概況ニ艦首水線附
 近ヨリ艦底ニ沿フテ 第九助材迄右舷 不明
 之レヨリ 後方第三汽缶室 艦底多少凹ミ生シ
 目下浸水セル 要件ニ区畫
 修理ヲ加ヘテ 委細ニ入渠ノ上

(花)

軍務局 7.8.28

1236

秘

三八〇

軍務局

大正七年三月二十七日

午後七時三十五分 吳海軍局發
午後九時四十分 海軍局着

發信者 吳鎮守府副官

受信者 大臣

暗號電報譯

第三水雷戰隊司令官ヨリノ電報取次
 三月二十六日午後三時頃迄天氣比較的良好
 ニシテ時津風及平戸乘員ハ船体傾斜墜落
 ラ防止ノ為港勢部(三語不詳)二十六日搭載物
 陸揚ヲ行ヒタルモ其ノ後西北西風稍強ク
 海上波浪荒ク且交通出來ザル(二字不詳)為
 作業ヲ止ノタリ時津風其ノ後補機室ニ於テ
 稍々裂ケ目ヲ生ズルニ至リ若シ波浪高シ甚ダシ

海軍

												如シ。	ク
海											午後十一時	断ノ	遠カラズ切
軍										(終)		ヒアルガ	恐

(勇正榜)

海務局



第一課
第二課

救

大正七年三月二十八日海軍省公表



驅逐艦時津風ハ僚艦ト共ニ去二十四日佐
 伯灣發有明灣ニ向ケ航行中暴風雨ニ
 遭ヒ強烈ナル濛雨ノ爲展望咫尺ヲ辨
 セス二十五日未明宮崎縣宮崎郡戸埵鼻
 暗礁ニ坐礁シ乗員一同必死之カ救助ニ
 努メタルモ艦體激浪ノ爲岩石ニ衝撃セ
 ラレ附近ノ僚艦亦近寄ルヲ得ス遂ニ午
 前九時半艦體ハ西断セラレ乗員退去
 ノ已ムナキニ至レリ乗員ハ若干ノ輕傷者
 ヲ生シタルノミ目下附近陸上ニアリ

1239

爾後僚艦及救難船遭難地附近ニアリ
同地附近天候未タ恢復セサル為状態
未タ詳查ヲ得サルモ艦體ノ移動ヲ繫
止シ應急救助作業中ナリ

（終）

秘

軍務局

三九〇

大正七年三月二十八日 午前〇時十分 吳海軍局發
午後四時三十分 海軍局着

發信者 吳鎮守府副官

受信者 大臣

暗號電報譯

第三水雷戰隊司令官ヨリ電報取次
三月二十七日夕通知昨夜西北西風強吹セシ
モ艦體ニ異状ナク終日好天氣ニテ取外シ
陸揚作業進捗シ明日モ尚引續キ陸揚作
業ニ從事ノ豫定又板橋丸到着ヲ待テ
船体ヲ維持シ損害ノ個所ヲ強固ニセントス
本日來着セル技師ト協議シ船体引却シ
計劃ヲ立テ之ニ要スル及救難材料等

ハ二十九日朝到着ノ豫定、当地方人民ハ遭
難當時以來好意ヲ表シ、輸送ノ助力ヲ
與ヘ且見舞ノ為來訪贈物等ナスモノ多シ。

終

〇正

海軍

秘

三九七

軍務局

艦政局

大正七年三月二十五日

午後六時四十分 吳局發

午後九時三十分 海軍局着

發信者 磯風 艦長

受信者 大臣

暗號 電報譯

其後殆ト漏水無ク樺護衛ノ下ニ異状ナシ

(3)

海軍

(明正印圖納)

1243

軍務局受 7. 8. 28



軍務局

艦政司

機關局

技術本部

第五部
第一部
第二部
第三部

一艦機務第七四編官

大正七年三月二十八日於土崎島

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

第一課
第二課

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍大臣加藤友三郎殿

三技計畫

司合之印

7.4.10

7.4.22

7.4.5

4.12

7.4.10

1244

水面に露出せし檻尾「ボル」トヘ「ト」後方ハ海水上甲板ヲ洗フ
右ノ外ハ工廠潜水夫ヲ以テ調査シテ後「ホ」ハ明瞭ナラス

意見

附近暗礁並ニ天候ノ關係上其儘浮力ヲ與ヘ引キ却ス
コト困難今「ト」先「ク」船体ヲ屈曲部ニ於テハ離シ引キ却ス
ヲ通シ直ナリト認ム

(備考) 右意見ハ吳工廠山縣技師ヨリ吳艦長官及
吳工廠長ニ電報シタルモノナリ為念

右報告ス

(終)

一 驅逐隊第七六号

大正七年三月二十八日於 坊崎鼻

第一驅逐隊司令 海軍大佐 田谷 堅藏

海軍大臣 加藤 友三郎 殿

田谷 堅藏
司令之印

驅逐艦 磯風 時現狀報告

時津風 空砲 時一 時觸礁 したる 應急所置 したる 自力 したる

二 廻航 本日 第二船 渠 入 渠 不入 渠 前 得 したる 損傷 程度 左 如 し

(一) 前部 彈藥 庫 下部 外底 約 三 吋 マシレ 上 上 上

(二) 橋 桁 下 部 第九 肋 材 迄 防水 區 劃 下 部 全 由

(三) 第一 鐵 室 右 舷 側 第三 鐵 室 右 舷 側 第三 鐵 室 右 舷 側 第三 鐵 室 右 舷 側 第三 鐵 室

波 狀 變 形 最 大 六 吋 ナリ

四 一 号 砲 押 し 上 げ 上 上

右報告ス
五二号巻ウレク押レ上ケ、ウレモ使用差支アレ

〆

1247

一 驅逐隊第七五号

大正七年三月二十八日於青森

第一驅逐隊司令 畑谷堅哉

第一驅逐隊
司令 畑谷

海軍大臣 加藤 友三郎 殿

驅逐艦濱風臨時現狀報告

驅逐艦濱風ハ時津風に罹り碇着時一時觸礁シタルを直ニ
離礁シ自力ヲ以テ具ニ廻航シ本日具第一船渠ニ入渠セ
リ入渠前得タル其損傷程度左ノ如シ

一 十三番ヒールヨリ三十六番ヒールニ至ル間艦底ニ水方隙
入シ縱横引レトシ屈曲シリバ止ノ切目ヨリ浸水シテ靴
物倉庫米庫全部満水ス頭部庫庫庫庫庫下二
重底多少浸水アリタルをヒールニエケエラシク使用シテ
其場加テ防止シ得タリ

官房

(三) 機械室豫備水ヲ引下及同後方百三十一番目ニ引込ヨリ
百三十五番目ニ至ル間中央區劃ニ於テ少シク由方ニ
屈曲シ多少ノ浸水アリタルモ此ルジボンピニ名ヲ使用シ
其増加ヲ防止シ得タリ

右教告ス

(終)

警

警 第六一四號ノ二

申報

大正七年四月二日

宮崎縣知事 堀内秀太郎

海軍大臣 加藤友三郎 殿

船隻遭難、周知ル件

船隻遭難時津風遭難、周知シテ、電報及書印ヲ以テ

救次申報置修處 三月三十一日 軍艦富士丸

班港 船隻遭難時津風遭難、周知シテ、電報及書印ヲ以テ

船隻遭難時津風遭難、周知シテ、電報及書印ヲ以テ

船隻遭難時津風遭難、周知シテ、電報及書印ヲ以テ

軍令部

軍務局

供覽

四月六日 官房受

1250

7.4.5

尚沈没品ハ他ノ兼員ト協力シテ引揚ニ從事中、
候ハ共遭難箇所ハ巖石峙立加之波濤高ク、
シテ作業甚ク困難ニ有之候而シテ其ノ復、於テ
ル引揚品ハ左記ノ通ニ有之候
遭難地折生迫 白濱部落ノ消防組青年會員等
ノ時津風遭難當時、於ケル勇敢ナル行動ハ純
ニ申報置候處同地方ハ貧弱ナル部落ノユート
テ物質的ニハ充介ナル援助ヲ爲シ能ハサルモ部落
ヲ擧テ精神の同情援助ニ努メテ、アリテ全部落
ノ村長助役村會議員區長等ハ日々事務所ニ
詰切リ宿舍食料品寝具等ノ斡旋ヲナシ一方慰
問品ヲ寄贈シテ遭難者ノ慰藉、努ムル等誠
意ヲ以テ盡カシテ、アリテ司令油谷大佐以下満足ノ

意ヲ表シ居リ候、

軍艦平戸ハ本月一日拔碇シ富士ハ三月三十日奉港
今日午後六時頃拔錨致シ候

追而時津風遭難當時乗員ノ救助ニ從事
シテ勇敢ナル働ヲナシ數ヶ所ニ負傷シッ
ル岩却菊藏ハ海軍軍醫及地方醫ノ
治療ヲ受ケツ、アリ經過良好ニシテ茲ニ週
間位ヲ經ハ全治スヘシトノ醫師ノ診斷ニ有
之候

尚、要官ヨリ公人ニ對シ慰籍料(ニ。圓)贈
與相成候ト付、ハ不取敢當廳ヨリ直接本人
ニ傳達致シ置、候条申候

右概況及追報候也

左記

水雷二個、蓄水器五個、重要書類若干、
被服若干、小機械若干

以上